九州・沖縄

旬感navi

SERVICE STATION

本日のメニュー

世界初の災害対応機能が誕生!

災害対応型「次世代高精度液面計」に注目

昭和機器工業（福岡市博多区）

高精度液面計で国内トップシェアを誇る昭和機器工業が、同社独自の最先端技術により、さらに機能を進化させた「災害対応型　次世代高精度液面計　DSV　X－2」を4月から発売して注目を集めている。

開発の背景には、熊本や大阪、北海道で相次ぐ地震のように近年多発する自然災害への対策がある。災害非常事態において、復旧の原動力となる緊急車両への給油の重要性は周知の事実であるが、販売業者にとって、SS営業再開の可否を握る地下タンクの安全確認がもっとも神経を使うところだ。

実際に3年前の熊本地震では、燃料供給の使命感から地下タンクに入水していることに気付かず給油してしまい、多数の車がエンジントラブルになったケースもあった。

そんな災害時の予測不能な状況を踏まえ、同社が開発した高精度液面計のセンサーには世界初となるタンク在庫量簡易表示機能を標準装備した。万が一の落雷や台風、竜巻、地震などの自然災害で停電しても、バックアップ電源により在庫量を簡易表示するのである。

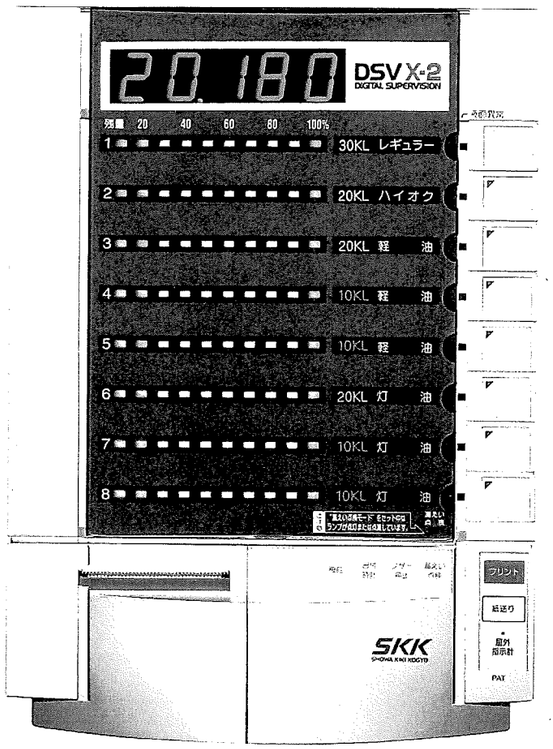
例えば、地震による停電の際に、同機能を用いて営業終了後と営業開始時の在庫量の変動をチェックすることで簡易的に漏えい検査が可能となる。夜間に水が混入していれば当然在庫量が増えていたり、逆に減っていれば漏えいが疑われる。営業終了時と在庫量の差異がなければ、安心してタンクへの荷卸しや緊急車両、一般車両への給油が可能となるわけだ。

また、災害時や万一のトラブルの際、センサー部を脱着することなく、地下タンク内の水位を測定できる専用検水口（専用のワイヤー式検水棒で測定）を利用できるのも現場にとって「自分の目で見て」安心を担保できる機能だ。

同社では昨年4月から九州地区限定で同機を発売したところ、「こういう機能を待っていた」と好評を博し、さらに口コミで遠方のSS業者からも問い合わせがあるなど大きな反響を呼んだことを受け、今年4月から全国発売を開始したという。

かつて、検尺棒で地下タンクの在庫を管理していた時代から、直読式（フロート式）の液面計が登場し、現代に至る高精度の磁歪式液面計へと進化してきた経緯がある。技術革新により、正確な在庫管理、高感度の漏えい検知機能など、その進化は目を見張るものだ。

一方、北海道地震で全域が停電する異常事態で露見しように、ハイテク化が進めば進むほど電力への依存度も高まり、災害時の脆弱性が浮き彫りになっている。そんななかで、同社が開発したバックアップ電源とタンク在庫量の直読機能をもった高精度液面計。災害時の「最後の砦」という重要な役割を担うSSにとって心強い機器となることは間違いない。



災害対応型　次世代高精度液面計「DSV　X－2」

世界初！停電時にも機能するセンサー表示部が標準装備